

参加したインターンシップについて教えてください

修士1年の時に、ボストンコンサルティンググループ（BCG）が実施していた数日間のインターンシッププログラムに参加しました。現役コンサルティングの指導の下、実際にありうるような仮想のテーマにチームで取り組みます。チームメンバーとのディスカッション、コンサルティングのアドバイスを踏まえ、テーマに対するソリューションを創り上げ、最後にチームでプレゼンを行うという流れでした。

参加してどんなことを感じましたか？

コンサルティングファームに対するイメージが大きく変わりました。参加前はかなりドライな人たちの集団という印象を持っていたのですが、社員とコミュニケーションをとるうちに、知的なだけではなく、気さくで親切な人柄にふれることができました。また、様々なバックグラウンドをもった方たちと接し、それぞれの方の魅



力や人間力を感じる事ができたことは大きな収穫です。

代表的なフレームワークといった基礎知識は本で事前に学習していたのですが、実践ではインプットした情報や知識だけでは全く歯が立ちませんでした。例えば、十分に考察したと思って相談しても、コンサルティングから「それはなぜか」「こういう観点ではどうか」などと繰り返し問われ、もっと深く考える必要があることを痛感しました。

実際に使った自分のものにし、使いながら自分のスタイルをつくっていく必要があると身にしみて感じたこと自体も大きな学びとなったことに加え、実践を通じて課題の本質に迫る重要性や具体的

東京大学大学院
農学生命科学研究科
生物材料科学専攻 修士2年

T・Kさん

ボストン コンサルティング グループ 内々定

Case

01

先輩体験談

「この仕事がやりたい」と確信できた

どう思考しているのかを知ることができました。

インターンシップの選考対策はどのように進めましたか？

特別な準備はしていませんが、コンサルティングファームの面接で必要になることが多いフェルミ推定の本は読みました。

本を読むことを通し、学部時代4年間所属していた野球部で、自分で設定した課題に対し解決策を考えていた日々の活動や、理系の研究で培ってきた思考の方法に近々と感じました。日頃よりきちんと物事を考えようとする癖がついていたことが、自然と対策になっていたようです。

インターンシップに参加して就職活動に役立ったことは？

「この仕事がやりたい」と確信できたことです。実際にプログラムに参加するなか、限界まで考え抜くことが、コンサルティングファームで働くうえで最も大切であると実感しました。私たちの世代は、すぐにインターネット検索で答えを知ろうとする傾向があり、

深く考えることが得意でないといわれますが、私自身は考え抜くことを刺激的で楽しいと感じるタイプなので、コンサルティングを職業に選ぶことは間違っていないと自身の方向性を再確認できました。

これからインターンシップや就職活動を控えている理系学生にアドバイスをお願いします。

選考が有利になるというメリットを理由にインターンシップを受ける学生もいますが、それよりもむしろインターンシップを通じて得られる経験そのものが人生の糧になると考えてほしいですね。インターンシップに参加しよう、がスタートではなく、何をしたいかが先にあり、それを実現するための選択肢がインターンシップであるならば参加すればいいですし、他のものでもいいと思います。いまのうちに多様な経験をして、自分自身を成長させることこそが、結果的に仕事選びや就職活動に役立つのではないかと思います。

参加したインターンシップについて教えてください

修士1年の時に、マイクロソフト ディベロップメント株式会社のインターンシップに参加しました。所属はMSD田ササービスの開発チームで、Outlookの新規要素開発業務に携わりました。

インターンシップの始めに、社員からアドバイスを受けながら自身で目標設定とスケジュールングを行いました。その後、事前マーケティング、アメリカの本社リサーチチャーとの相談、資料収集、ディスカッション、利便性を考慮したUIデザイン、コーディングも含め、サービスのプロトタイプを作り上げるまでの一連のプロセスを経験できました。

参加してどんなことを感じましたか？

フルタイムで正社員と同じ業務をするのは初めての経験でした。要求される成果レベルも高く、事前に業務の進め方を理解したつもりでも、実際に遂行すると想定外の状況が多くありました。業務に対する想像とのギャップを感じましたし、勤めるということの大変

さを実感できましたね。

外資系企業でのインターンシップだったこともあり、社員、インターン参加者ともに様々なバックグラウンドをお持ちの方がいらっしやいました。ディスカッションをする時も、相手に自分の意見を伝え、理解してもらうために、常に論理的に考える思考力と言葉の使い方も含めた高いプレゼンテーション能力が必要でした。みな個々の意見を持っているため、全く異なる観点からの意見を聞けたのも良い経験でした。

インターンシップの選考対策はどのように進めましたか？

特定の企業に対してということではありませんが、外資系企業の面接などで必要とされるフェルミ



慶應義塾大学大学院

理工学研究科

開放環境科学専攻 修士2年

篠塚 祐紀子さん

マイクロソフト ディベロップメント株式会社 内々定

case

02

インターン

企業や業務を詳しく知ること 将来のビジョンが明確に

推定を学びました。論理的思考力や推論が必要とされる場で有用な思考法です。面接対策としては、明解で筋道だった回答ができるよう、ロジカルシンキングの徹底を心がけ、強調すべき点などは話し方を工夫し、効果的に伝えるようにしました。

また、選考に限った話ではないのですが、グローバルにビジネスを展開している企業では、物事を多角的に見ることができるようしておくことが大切だと感じました。理系の学生の場合、どんな研究をしているかについてよく質問されます。自分の研究が社会にとってどういう風に役立つのかを説明できるようにしておくのも大事です。自分の研究内容と社会とのつながりを常に考えることで、ビジネスとして役に立つ可能性があるか否かを考えられるようになる利点もあります。

インターンシップに参加して就職活動に役立ったことは？

やはり業務への理解が深まったことですね。実際に正社員と同じ業務を体験していれば、志望動機についても悩むことはありません。また、社員と直接話す機会が得

られたのも大きいですね。求められている人材像や能力についてだけでなく、企業と社員の雰囲気を知ることが出来ます。自分にマッチしているかどうかに加えて、企業の深い部分まで知ることが出来ました。

企業や業務について詳しく知ることができれば、将来のビジョンが明確になります。自分が10〜20年後にどうなっているのかを想像できると、実際に内定をいただいた後、入社を決める判断材料になると思います。

これからインターンシップや就職活動を控えている理系学生にアドバイスをお願いします

受けるかどうか悩むこともあると思いますが、まずはチャレンジしてみる事です。インターンシップは必ずしも内定につながるわけではありませんが、就職活動が本格化した時期に楽になるというメリットもあるかもしれません。また、就職する前に、自分の総合的な力がどこまで通用するのかを試せる貴重な機会でもあります。自分から動かないと何も始まりません。人生は一度きりですし、やりたいことに積極的にチャレンジしてほしいですね。